

【1 日目】

(1) 平和記念式典参列

8月6日に平和記念式典に参加しました。小学生の平和の誓いを聞き、高校生の自分よりしっかりしていて、もっと平和について考えていく必要性を感じました。



(2) ひろしま子ども平和の集いでの発表

自分たちは、パワーポイントを使い沖縄戦と広島原爆投下という過去の出来事を振り返り、共通点などをまとめて、高校生である自分達ができる事は何かを考え発表しました。他校の発表には、詩の朗読や歌であったり、自分が考えたことのない形で平和に対する思いをアプローチしていたので、平和を発信する方法は多様にあることを知り、とても勉強になりました。



【2 日目】

(1) 平和記念資料館見学

資料館では、写真・体験談が多く展示されており、その一つ一つの表すものが強く伝わってきました。そして、ある体験談の一つに全身にひどい負傷を負いながらも母を探すという話がありました。まだその子は10歳でした。後にその子は死んでしまったのですが、兄がその話を語り継いでくれました。大切なものを一瞬で無くしてしまう原爆に、虚しく悲痛な思いが書かれていて、周りには泣きそうな人もいました。資料館では、原爆投下とは何だったのかを、私たちに突きつけられました。



(2) 平和首長会議主催平和プログラム

滋賀県、宮崎県、広島県の中高生とグループディスカッションをしました。他県の高校生と平和について話したのは初めてなので、とても新鮮に感じ、学ぶことも沢山ありました。痛感させられた事は、沖縄の高校生は、沖縄戦についての知識量や関心が全然なことでした。

広島の中高生は原爆についての概要をちゃんと知っているし、原爆の恐ろしさ、自分達ができる事をちゃんと行動に移していました。広島では、学校で原爆についてのディス



カッションをしたりすると聞いたので、沖縄にもそういう時間を設ける学校が増えたら、もっと沖縄戦について考える若い世代が増え、平和な社会を形成するのに必要なことだと思いました。

【まとめ】

私たちは今回、原爆投下によって広島で起きたことやその被害について学び、そしてその事実を現在にどのように繋げていくかの取り組みを知ることができました。今後、学んだことをさらに深く理解するために学び、そして広めてこの思いを繋いでいきたいと思います。これが、広島のことを知った私たちの課題だと思います。

今行われている平和を構築していく取り組みを決して途絶えさせてはいけない、それを一番に考えてこれからも行動していきたいです。